

### Ⅲ. 委員会活動

## 1. 教務委員会

委員長：辻郁

委員：清田直恵 大槻桂右 森岡悦子 大西環 嶋崎佑一

年間スケジュール，定期試験関連事項，開講科目，入学前オリエンテーション，在校生オリエンテーション，卒業研究等に関する業務を担当した。

回	日時	報告及び審議内容
第1回	4月2日 10:40-12:10	担当業務，年間スケジュール，各チューター確認 卒業研究について（提出日，提出方法など） 出席管理の徹底について
第2回	5月7日 10:40-12:10	保護者会実施報告，欠席多数学生の保護者への通知 見回許可科目への対応：教員への聞き取りと見回り実施 入学前教育の実施方法について
第3回	6月4日 10:40-12:10	公欠学生への対応について 定期試験スケジュール，監督者数の確認
第4回	7月2日 10:40-12:10	卒業研究関係報告 次年度のスケジュール確認 定期試験監督に関する教員への周知文の決定 4年生の実習終了後の開講時期について
第5回	8月6日 10:40-12:10	定期試験実施結果 次年度の開講科目について
第6回	9月3日 10:40-12:10	再試験申し込みについて 次年度開講科目について 基礎ゼミについて
第7回	10月1日 10:40-12:10	留年決定後の成績取り消しについて 科目日程の確認と履修届方法について 卒業研究について
第8回	11月5日 10:40-12:10	入学前教育について 履修届出期日に遅れた学生・入院中で集中講義に出席できない学生への対応について 出席簿代筆を行った学生への対応（欠席扱い，保護者への周知）
第9回	12月3日 10:40-12:10	次年度開講科目について 新入生及び在校生オリエンテーションと健康診断について

	10	1年留年生 再履修者の成績判定について
第10回	1月7日 10:40-12: 10	チーム医療論の講師選定 基礎ゼミの実施形態について 経営健全化対策 教務担当分の進捗状況確認
第11回	2月4日 10:40-12: 10	定期試験実施報告
第12回	3月4日 10:40-12: 10	時間割について 単位認定会議の変更について (半期に一度から年一度) 4期生卒業研究許諾分科会について, 教育学開講方法について 入学式について 授業構成の確認について

## 2. 学生委員会

委員長：藪中良彦

委員：橋本卓也 森田婦美子 牧ノ瀬一博 齋藤典昭 白神康裕

学生委員会では 2013 年度に以下の活動を実施した。

### 1. 学生自治会援助

- 1) 自治会役員選挙援助：役員選挙実施を援助した。
- 2) 学生自治会主催行事援助：新入生歓迎会（5月7日）と学園祭（10月19日）と各クラス企画行事の実施を援助した。
- 3) クラブ・サークル設立及び活動の援助：自治会と共にクラブ・サークル新規設立と更新の審査を実施した。
- 4) 自治会会計援助：自治会予算作成、予算執行、決算の援助を実施した。

### 2. 学生生活アンケート実施

1月に全学生を対象に学生生活アンケートを実施し、その結果をまとめた。

### 3. 学生向け研修会・講習会主催

4月23日に「薬物乱用防止」に関する講演会を実施すると共に、10月22日に AED 講習会を実施した。

### 4. 保健管理室との連携

学生委員会会議で毎回保健管理室の状況の報告を受け、保健管理室との連携を図った。

### 5. 懲戒処分を受けた学生の指導

通学にバイクを使用するという学則違反を犯した結果無期停学処分を受けた学生の指導を行った。

### 3. 入試委員会

委員長：井上悟

委員：山口忍 吉機俊雄 佐藤睦美 足立一 嶋崎佑一

#### ・ 委員会の開催：

第1回：4月23日（火） 報告事項：前年度確認事項報告、審議事項：①A0入試準備、②入試日教員配置予定表の作成検討

第2回：5月28日（火） 審議事項：中期目標内容の検討、A0入試準備

第3回：6月25日（火） 審議事項：過去3年間の入試方法別の学生の転帰について

第4回：7月23日（火） 審議事項：A0入試準備、ビデオ撮影を分担実施（夏休期間にA0入試の作成作業を数回に渡り行った。）

第5回：9月24日（火） 審議事項：A0入試のシナリオ、ナレーション作成、採点表検討

第6回：10月22日（火） 審議事項：平成27年度センター入試利用科目の公表について確認

第7回：11月26日（火） 審議事項：平成27年度入試の方針について検討

第8回：1月28日（火） 審議事項：社会人入試の広報の充実、試験内容について検討

#### ・ 委員会の総括：

入試委員会では、平成26年度入試の実施準備（平成25年度実施分）および平成27年度に向けた入試改革（中期計画）の検討に取り組んだ。特に平成27年度入試に向けた中期計画の検討では、各入試形態による退学者数の比較検討、各入試形態の実施方法の検討を行い、質の高い学生確保に資するよう努めた。

・入試日別教員配置予定表の早期作成を試みた。予定をたて易く概ね好評であり継続する。

・各入試形態別の退学者数（過去3年間）は、推薦入試での入学者に最も多い結果となった。

・A0入試：入試問題の多様性を考え、募集要項の記載を「ビデオ視聴に基づく小論文」から「講義受講に基づく小論文」に変更した。

・社会人入試：社会の要請に鑑み、広報の仕方や試験内容を検討した結果、現行の方法とした。

・公募制推薦入試：平成24年度の決定により新B方式採点（国語100点、面接50点、調査書50点）で行われた。

#### 4. 広報委員会

委員長：今井 公一

委員：山田隆人、島 雅人、工藤芳幸、境 隆弘、伊禮まり子、清田直恵、  
吉松秀典（岩村正子）

平成 25 年度の活動にあたっては、出張関係、オープンキャンパス、大学通信、大学案内に関する事業に区分けし、個々にリーダーを設定して活動を行なった。

##### （1）出張関係（学外広報活動：ガイダンス、進路室への訪問）

企業ならびに高校から依頼されるガイダンスについて、教員・事務にて役割分担しながら積極的な参加を行なった。また受験生や入学者のいる実績校、および成績上位校を考慮しながら進路室への訪問などを行った。

##### （2）オープンキャンパスの運営

年間テーマを掲げて、「毎回あらたな発見がある」をメインテーマに掲げ、オープンキャンパスを運営した。学生、教職員が一丸となり年間 9 回のオープンキャンパスを実施し、のべ 597 名が参加し、昨年度より参加者が約 10%増加した。（2011 年度 547 名、2010 年度 445、2009 年度 482 名）。オープンキャンパスの参加者にアンケートを実施し、次年度以降に学生の希望を反映していくような体制を取った。

##### （3）大学通信の発行

今年度は刊行を 4 回とし、入学時、学園祭、国家試験、新入生受け入れ、など、時期によりメリハリをつけた編集内容とした。次年度以降については、大学通信のあり方について検討する必要性が明らかとなった。

##### （4）大学案内の作成

本年度は、コンペにより作成業者を選定し、「教育内容が受験生に伝わる」をコンセプトに、パンフレットの大改訂を行った。

## 5 HP/WG

WG リーダー：柴田雅朗

委員：山田隆人、清田直恵、工藤芳幸、吉松秀典、宮本華、  
広報委員長 今井公一

平成 25 年度は昨年度よりリニューアルされたホームページについて本格運用の年度となった。

まずトップページの効果的な掲載内容について検討し、訪問者別の入口の設置、学部・専攻科・大学院のページ作成、開示情報の掲載ページの設定及び改善等を行なった。またタイムリーな情報提供が実現できるように、運用にあたっての手続きを明文化するため、ホームページ管理運用規定（案）について検討した。

一方各専攻間で募集環境について相違が認められるため、各専攻毎の記事の掲載やページのあり方について検討を加えた。特に ST 専攻科については、対象が大学卒業者という事情もあり、facebook の立ち上げなど時代に則した広報活動の展開を進めた。さらに学部、専攻科、大学院の位置づけの違いや対象者の違いが明確に示せるように、トップページのデザインについて検討を行なった。

## 6 公開講座委員会

委員長：吉田文

委員：松井理直 伊禮まり子 吉幾俊男 岩村正子

平成 25 年度は、年間テーマ「健康な生活とレクリエーション」の下に、3 回シリーズで公開講座を実施した。

テーマの理由：

- ① 障害がある方も、障害がない方も健康な生活には余暇活動が必要不可欠であるため
- ② 余暇活動を支援することは、地域における健康な生活づくりを支援するリハビリテーション専門職としての社会貢献活動となるため
- ③ またそれは疾病や障害の予防という観点にも繋がるため

公開講座開催実績：

### 第 1 回

日 時：平成 25 年 7 月 13 日（土）14：00～15：00

会 場：大阪保健医療大学 2 号館 6 階講堂

テーマ：「サッカーが毎日を生き生きさせる～知的障害をもつ方のスポーツ」

講 師：大阪保健医療大学 准教授 山田隆人

参加費：無料

参加人数：8 名

### 第 2 回

日 時：平成 25 年 9 月 22 日（日）14：00～15：00

会 場：大阪保健医療大学 2 号館 6 階講堂

テーマ：「ココロとカラダを解き放とう～ヨーガで肥満予防・アンチエイジング」

講 師：大阪保健医療大学 講師 森田婦美子

参加費：無料

参加人数：15 名

### 第 3 回

日 時：平成 26 年 1 月 26 日（日）14：00～15：00

会 場：大阪保健医療大学 2 号館 6 階 601 教室

テーマ：「地域リハビリテーションの魅力」

～言語障害者の家族会“因島 あげぼの会”と共に」

講 師：因島医師会病院 リハビリテーション科 科長

村上光裕先生（言語聴覚士）

参加費：無料

参加人数：83 名

委員会開催回数：10 回

第 1 回平成 25 年 4 月 23 日（火）～第 10 回平成 26 年 2 月 25 日（火）

審議事項

- ・ 公開講座の企画
- ・ 公開講座実施までのスケジュール調整
- ・ 会場確保、講師依頼、役割分担等の運営に関する事
- ・ 広報戦略と広報の実施
- ・ 公開講座年間予算計画
- ・ 公開講座アンケート作成と結果
- ・ 公開講座実施後の反省

## 7. 図書委員会

委員長：吉田文

委員：中村憲正 岩田篤 大西環 井村聡子

平成 25 年度の活動を大きくまとめてみると「学生の本離れを防ぎ、学生が有効に活用できる図書館」を目指す内容であったと考える。そのために図書館司書の方と協力し下記の 5 つの活動に取り組んだ。

1. 図書館利用方法の周知：新入生図書館ツアー
2. 学生が利用しやすい、利用価値の高い有益な蔵書を増やす：教員・学生からの希望図書の購入
3. 学生の本への興味を喚起：
  - ①図書委員による「おすすめ図書」の紹介
  - ②「選書ツアー」の実施
4. 学生の文献検索における利便性を高める：電子ジャーナルおよびインターネット検索エンジンの学生利用の拡大についての検討
5. 利用しやすい蔵書の管理：雑誌製本、書庫の増築

活動結果：

1. 図書館利用方法の周知：新入生図書館ツアー  
理学療法学専攻 平成 25 年 5 月 7 日（火）2 限目に実施  
68 名参加／69 名在籍、教員佐藤引率  
作業療法学専攻 平成 25 年 5 月 10 日（金）2 限目に実施  
24 名参加／28 名在籍、教員吉田引率
2. 利用価値の高い有益な蔵書を増やす：教員・学生からの希望図書の購入  
教員からの希望図書（学生が読みやすい本や映像教材も含め希望を提出）
  - 6 月 希望図書のリストを各専攻でとりまとめる
  - 7 月 図書委員会で希望図書リスト確認
  - 8 月 再度希望図書を募る
  - 9 月 図書委員会で希望図書を検討
  - 11 月 稟議書提出
  - 12 月 購入

学生からの希望図書

学生が希望図書アンケートを随時提出、図書委員会で審議し購入を決定した。

### 3. 学生の本への興味を喚起

#### ①図書委員による「おすすめ図書」の紹介

学生が興味を持ちやすい本、授業等にも利用できる本、未来の医療職者として是非読んで欲しい本を図書委員が選び、簡単な推薦文を添えて紹介した。

7月 柴本 礼：日々コウジ中～高次脳機能障害の夫と暮らす日常コミック。  
主婦の友社，2010.

9月 伊藤絵美，向谷地生良：認知行動療法、べてる式。医学書院，2007.

11月 坂井建雄：マンガでわかる身体のしくみ。池田書店，2012.

1月 シーナ・アイエンガー他：知の最先端。株式会社 PHP 研究所，2013.

#### ②「選書ツアー」の実施

学生から1クラスにつき2名の選書係を募り、教員が書店（ジュンク堂天満橋店）に引率。好みの図書を一人5,000円以内で購入し、図書館の蔵書とする。その後、選書本を紹介する小冊子を作成し、PT・OT1～3年、ST1，2年の学生に配布。

PT・OT 11/19（火）10：40～12：10 PT・OT 1～3年 12名

ST 12/ 3（火）17：50～19：00 ST 1，2年 4名

### 4. 学生の文献検索における利便性を高める：

英文電子ジャーナルおよびインターネット検索エンジンの学生利用の拡大  
についての検討

- ・ 英文電子ジャーナルを学生が利用するためには図書館ホームページに電子ジャーナルに入れるアイコンをつける方法が良いが、ホームページが特殊なシステムで作られているため難しい
- ・ インターネット検索エンジンの学生利用拡大（現在抄録のみであるが全文ダウンロードを可能にする）については、図書委員会から方法を運営委員会に提案した

### 5. 利用しやすい蔵書の管理：雑誌製本、書庫の増築

- ・ 雑誌製本の時期を各専攻の卒業研究の進行にあわせて決定し、できるだけ学習の妨げにならないように配慮した
- ・ 製本雑誌が増えたため、理事会決定により書庫を増築し保管場所を確保した

その他の活動：

#### 1. 校友会からの書籍の寄付への対応

- ・ 校友会から書籍を寄付していただけることになり、購入書籍のリストづくり等に協力

した

2. 中長期計画に関連した取り組み

- ・ 経費削減を行うために、電子ジャーナルの高額なものを中心に利用状況を調査したが、全て利用していることが分かり削減することは出来なかった

3. 雑誌の保存年限の決定

- ・ 利用頻度が高いと思われる専攻に雑誌の保存年限の希望を調査し決定した。5年保存を原則として、5年経過後にA. 10年保存、B. 5年保存、C. 保存の必要なしで対応する。

4. 雑誌や電子ジャーナルの購入を他大学と分担できるかどうか検討

今後ますます増えていく蔵書を考え、他大学と分担して雑誌や電子ジャーナルを購入し、相互利用できないかどうかについて他大学の情報を収集した。現在のところは、他大学で公式に分担制をとっている大学は見あたらない。

5. 委員会の開催

第1回 平成25年4月23日（火）～第10回平成26年2月25日（火）

## 8. 臨床実習委員会

委員長 山田隆人

委員 藪中良彦 前田留美子 岩田篤 溝畑允康

臨床実習委員会では 2013 年度に以下の活動を実施した。

### 1. 4月上旬の臨床実習地への健康診断書の提出について

PT・OT 専攻新IV回生は、4月上旬より実習が始まり実習先から健康診断証明書の提出を求められることがある。大学で実施している健康診断は当該年次に実施するものであり、実施時期を前倒しすることは出来ない。その為、健康診断書は学生個々で受診し、取得する形となった。

### 2. 病院実習生受諾許可書について

実習先から病院実習生受諾許可書について依頼を受け、作成した。

### 3. 実習地追加・変更申請について

実習地の追加・変更申請に関する書類において、様式第5号（その3）の実習施設の承諾書に対して、文部科学省からの指摘事項が以前より細密になっている。その為、実習先へ依頼する際、承諾書の記入例を再度作成し統一した。

### 4. 実習地確保について

各専攻の実習地確保に関する現状を確認した。PT 専攻に関しては、近畿圏内の実習地比率が平成 26 年度では 66%へと増加した。ST 専攻に関しては、平成 25 年度における近畿圏の実習地比率が 75.5%を占めていた。OT 専攻に関しては、平成 25 年度の近畿圏での実習地比率が 95%を占めていた。

実習地確保に関して、OCR の全卒業生の就職先一覧を各専攻で確認し、今後近隣の実習先として依頼できるところを検討し、POS 統一して実習依頼できるよう進めた。また、PT・OT 専攻に関しては、OCR と調整し進めた。

## 9. ハラスメント委員会

### <委員構成>

- ・境 隆弘 (委員長)
- ・森田婦美子 (副委員長)
- ・吉機俊男
- ・大槻桂右
- ・清水大輔
- ・辻 祥子

### <活動内容>

- ・平成 25 年度新入生および入学時未受講であった理学療法学専攻新 4 年生と作業療法学専攻新 3 年生に対して、ハラスメント講習会を実施 (講師：森田委員)。
- ・ハラスメント投書箱の有効活用化の検討 (設置場所・学生への周知)
- ・ハラスメント相談員の選出 (佐藤秀紀・吉田文・辻祥子、敬称略)
- ・他大学のハラスメント実態調査 (全教職員へも紹介)

## 10. キャリアサポート委員会

委員長：森岡悦子

委員：前田留美子 牧之瀬一博 柳千磨 井口知也 溝畑允康

キャリアサポート委員会は、学生の就職活動およびキャリア教育の支援を行うことを、活動の主目的としている。就職活動に役立つよう、履歴書・自己PRの書き方、社会人としてのマナーについてのパンフレットを作成している。また、最終年次の学生を対象に就職面接の演習を中心とする就職準備セミナー、新入生を対象にマナー意識を高めるためのベーシックマナー・セミナーを開催した。また、就職活動の資料となるよう、内定時のアンケートから、就職活動に必要な準備についての資料を作成するとともに、就職内定状況を把握するため各月の内定数を調査した。2013年度の活動は次の通りである。

### (1) 委員会の実施日と議題

第1回（2013年 4月23日）アンケートからセミナー内容の検討、ベーシックマナー・セミナーの反省

第2回（2013年 5月28日）マナー協会との個人情報提携、PT就職セミナーの打合せ

第3回（2013年 6月25日）PT就職セミナーの反省、ST就職セミナー打合せ、就職活動ガイダンス

第4回（2013年 7月23日）ST就職セミナーの反省、就職活動ガイダンス

第5回（2013年 9月24日）アンケート結果によりセミナーの内容と時間配分について検討

第6回（2013年10月22日）STベーシックセミナー参加、就職面接と就職活動準備、来年度行事と予算

第7回（2013年 1月28日）OTセミナー打合せ、就職試験と就職準備状況の報告

第8回（2013年 3月25日）OT就職準備セミナーの実施報告、就職内定時期調査報告、就職活動報告

### (2) 新入生ベーシックマナー・セミナーの開催について

2013年4月16日に、PT専攻、OT専攻の1年生を対象として、基礎ゼミナールの一環として、3教室に分かれて実施した。挨拶のしかたやお礼状の書き方など、社会人としてのマナーなど、充実した内容であった。昨年度から引き継いだベーシックマナー・セミナー用のパンフレットを配布し、これも好評であった。

### (3) 就職準備セミナーの開催について

2013年6月21日（金）にPT専攻4年生を対象に、7月6日（土）にST専攻科2年生を対象に、2014年3月13日（木）にOT専攻3年生を対象に、就職準備セミナーを開催した。就職準備セミナー用のパンフレットをもとに、自己PR、自己分析、履歴書の書き方について指導を受けた後、面接の演習を行った。面接の演習では、講師に、注意点を具体的に指摘していただいたことが好評であった。就職試験直前の練習に役立つよう、面接の様子は、すべてビデオに撮影して保存した。今年度のアンケート結果による学生の希望により、セミナーにおけるレクチャーの時間を短縮し、面接などの演習時間を延長することとした。

(4) 就職活動の資料について

就職が内定した時期に、学生にアンケートをとり、就職活動中の経験や感想をまとめ、来年度以降の就職活動指導の資料となるようまとめた。また、専攻・専攻科ごとに、各月の就職の内定人数を調査し、内定状況を調査した。

## 1 1 . FD 委員会

委員長 佐藤睦美

委員 牧之瀬一博 橋本卓也 齋藤典昭 白神康裕

FD 委員会では、教員の教育内容の改善と教育力の向上を目的とし、下記の事項を検討し実施した。

### (1) 学生による授業評価アンケートの実施

前期・後期の最終授業終了後に、オムニバス科目を除き、専任教員と非常勤教員の担当する全科目について、学生による授業評価アンケートを実施した。マークシートは、学生自身の学習への構え・教材の利用・授業の分かりやすさ・教員の意欲等についての 5 段階評価と記述項目で構成されている。授業評価アンケートの結果は、FD 委員会から担当教員に報告し、教員は各自で授業を振り返るとともに、アンケート結果に対する応答とメッセージを記述し、それらを「担当教員から学生へのフィードバック」として、学内 Web に掲載した。前期は、保健医療学部 59 科目、言語聴覚専攻科 17 科目、計 76 科目、後期は、保健医療学部 39 科目、言語聴覚専攻科 17 科目、計 56 科目に、アンケートを実施した。

### (2) 授業評価アンケートの改訂

学生による授業評価アンケートは、2012 年度の内容を引き続き実施した。学生からの回答はマークシートおよび自由記載 (Moodle に入力) とし、回答の集計については外部委託とした。結果を各教員に返却し、学生へのフィードバックの提出依頼、回収を行った。フィードバックについては Moodle に掲載し、各学生が自由に閲覧できる様にした。

### (3) FD 講演会について

優れた医療人を育成するための授業のあり方として、専門知識を習得するための学習習慣の確立が重要と考え、FD 講演会を企画した。「初年度教育のあり方 ～大学での学びの確立」をテーマに安永悟先生 (久留米大学教育学部教授) を講師に迎え、「協同」をキーワードとした学習スタイルの確立についてお話を伺った。安永先生が実践されている手法などを具体的にご紹介頂き、本学での教育においても応用できるたくさんのヒントを頂いた。

### (4) FD 研究会 (意見交換会)

本学における授業のあり方について、出席した教員間で意見交換のできる FD 研究会を 2 回企画した。1 回目 (2013 年 5 月 14 日) は「ラーニングスタイルプロフィール (第 2 回)」をテーマとし、本学の森田講師より、ラーニングスタイルプロフィールを本学の学生指導

に活かす為の具体案を紹介いただいた。2回目（2013年12月10日）は本学の牧之瀬一博講師から名古屋大学で開発された優れた授業実践のための教材「ティップス先生」をご紹介頂くとともに、出席した教員が行っている工夫や苦勞している点などについて具体的に意見交換がなされた。

FD委員会は、今後も外部からの新情報を取り入れながら、各教員が自らの授業を振り返る機会となる企画を検討していく方針である。

## 12. 自己点検評価委員会

委員長：井上悟

委員：佐藤秀紀 森岡悦子 吉幾俊雄 足立一 柳千磨 正木明人

### ・自己点検・評価委員会の開催

第1回：4月16日（火）報告事項：委員長報告、審議事項：①今年度計画について②平成24年度大学年報作成計画について③教員活動自己点検評価報告書について④その他

第2回：5月21日（火）報告事項：委員長報告、平成25年度大学評価セミナー参加報告

第3回：6月18日（火）審議事項：新「受審の手引書」に関する意見交換

第4回：7月16日（火）報告事項：日本高等教育評価機構平成24年度評価充実協議会参加報告

第5回：9月17日報告事項：日本高等教育評価機構平成25年度評価案内について  
審議事項：大学年報について

第6回：11月19日、報告事項：大学年報11月末〆切、審議事項：平成24年度教員活動自己点検・評価報告書の公表は3月末日までとした。

補足1月21日（火）欠席者が多いため、メール資料、持ち回り会議を行った。

第7回：2月18日報告事項：①大学年報について：HP上公表時期は9月末日〆切（私立大学等経常費補助金の対象校の規程）

第8回：3月18日報告事項：①教員活動自己点検・評価報告書について②大学年報について

### ・平成25年度自己点検・評価委員会の総括：

本学は開学から5年経過したことから、完成年次後の自己点検及び第三者認証評価への準備と、現在までの大学の概要・教育・研究・施設設備・地域貢献・管理運営の総括として、平成24年度の大学年報（事業報告書）を編纂し、本学HP上で公開した（3月末）。

また本学は、平成27年度に日本高等教育評価機構の大学認証評価を受ける予定である。本年度は日本高等教育評価機構平成25年度評価充実協議会に参加し委員会にて講演要旨を報告した。今後、日本高等教育評価機構平成26年度セミナーや研修会にも参加予定である。社会の要請に充分に応え、教育の質の保証と教育力の向上を図っていくために、大学独自領域の自己点検評価項目を検討した。

### 13. 健康管理室

委員 藪中良彦、清水大輔、森田婦美子、金月佳子、坂倉美紀

保健管理室は、保健管理に関する専門的業務を行い、学生の健康の保持増進をはかることを目的とし（大阪保健医療大学保健管理室規定第二条）、以下の業務を実施した。

- (1) 定期健康診断を実施し、要精密検査、再検査の学生には医療機関を受診するよう指導、必要に応じて保健指導を行った。
- (2) 健康相談室を週2回開催し、学生の身体的、精神的健康相談及び指導を実施した。
- (3) 学内の衛生環境及び感染症の予防についての指導助言を行った。

森田講師（看護教員）が平成25年9月末に退職となり、10月より金月看護師が週2回（火曜日と金曜日）保健管理室勤務となった。

#### 14. 男女共同参画・若手研究者支援委員会

委員長：山口忍

委員：井口知也 森田婦美子 大槻桂右 清田直恵

平成 24 年度より学長のご指示で活動を開始した本委員会は、より公平で互いに尊重し合える働き易い職場環境作りを目指して、活動を開始した。委員会は年 3 回程度の不定期開催で、平成 24 年度は、教職員のワークライフバランスに関するアンケート調査を行い、帰宅後の生活時間の中で講義準備を行う実態、研究に必要な時間や環境が十分ではない現状、特に業務内の事務作業量の占める割合の高さを指摘する意見が多く寄せられた。また、仕事量の偏り（「教員間」で「時期的」に）について複数の指摘があり、業務の配分や準備・配置などに一考が必要と思われた。

そこで平成 25 年度、1 年間を通じた本学の教職員の業務実態について、PT・OT の専攻別に調査した（別紙参照）。これについて 10 月の教授会で報告したが、それによると年間通して事務作業が中断なくあり、特に養成教育ならではの臨床実習に伴う煩雑な事務の数々や対応は時期的に増大し、その多くが若手教員に集中することも判明した。こうした事務作業について、文部科学省が 2010 に実施した大学実態調査「大学等における科学技術・学術活動実態調査報告」によると、研究に優れる教職員を確保するため、多くの大学で事務員を配置するなど事務作業の軽減化を図っていることがわかった。

そこで平成 25 年 1 月から事務作業の集中する若手教員を対象に、業務配分に関するアンケート調査を行い、事務作業が教員の業務に占める割合について、まず心理的側面から回答を求めた。この結果について、さらに業務にかかる実時間数を調査し、全教職員の業務量に占める事務量についても併せて調査を行い、その軽減を図る方策を委員会として探り、提案していく予定である。

## 15. 国際交流委員会

委員長：井上悟

委員：辻郁 今井公一 中野尚美 佐藤誠事務局長

大学の国際交流事業の一環として、カンボジアへのスタディー・ツアーを企画・学生参加公募を行った。しかし残念ながら最小催行人数（8人）に満たず、本年度は大学としての開催を見送った。